

我が趣味の遍歴



苦小牧市医師会

山本耳鼻咽喉科みみ・はな・のどクリニック

やま

もと

かず

お

山

本

一

男

私は二十八才の時からいろいろな趣味に興味がかかれ、楽しい人生を送ってきた。今日はその思い出を述べてみたい。

①カメラ

昭和四十二年の秋、私は函館のT病院に勤務していた。翌年結婚を控えていたので、初給料で念願の「ニコマート」を手に入れた。「ニコマート」で病院の先生、職員、函館の風景などたくさん撮影した。

翌年は浦河のN病院に派遣されたが、休診日には病院の暗室を借り切って、朝から日が暮れる迄、新婚の妻と写真作りに夢中であった。

話は変わるが、苦小牧で開業後、しばらくして休診日に郊外の森田遊園を訪れた。そこに咲いていた野の花に魅せられて、私の野草撮影が始まった。約二十年間も続いた。まとめとして苦小牧市内で「野の花写真展」、次いで「野草写真集」も刊行した。

その後は私にとって野草以上に心ひかれる被写体が見つからず、愛用のカメラは棚に飾ったままである。

②ボウリング

市立札幌病院時代は昭和四十年四月から約二年であった。

この頃はボウリング・ブームで毎月のように他科の医局、詰所などと親睦の大会があり、楽しかった。

昭和四十七年に苦小牧市立病院に移った。その頃当地でもボウリングは盛んであったがブームは長くなかった。

③タイムス・マラソン

市立札幌病院時代に北海タイムス社が主催のマラソンがあった。この頃走るのが好きだったので、エントリーした。まず足ならしのため、自宅と病院の往復を走った。当時病院のアパートは円山にあり、病院までは四キロ近くあったように思う。また、アパート近くには北海道学芸大学の大きなグラウンドがあり、練習に随分使わせてもらった。

充分走りこんだつもりだったが、本番では折り返し地点の銭函あたりで、時間制限にひっかかり、大会のバスに収容された。翌年再トライしたが、今度は先輩の車が収容してくれた。以後、マラソン熱は冷めたままである。

④ゴルフ

苦小牧市立病院の勤務前にゴルフはするまいと決めていた。休日は家族同伴で過ごしたいと思っていたからである。しかし医師たちの話題はゴルフばかり。

一人蚊帳の外で淋しい思いをしていた私はとうとう誘惑に負けゴルフをすることに。それからというもの、肋骨にヒビが入るほど猛練習した。その甲斐あってコンペではほぼ毎回入賞して「賞品ドロボー」と呼ばれるようになった。二年足らずでハンディは三十六から二十二になった。

最近はゴルフの師匠M先生、家内、小生の三人で研修会と称してプレイすることが多い。M先生の健脚と研究熱心にはいつも感心している。

たまに、息子、娘、孫たちとラウンドすることがある。とても嬉しく幸せなひとときである。

⑤スキー

三～四年前まで、私は冬になるとモーラップ、ニセコ、ルスツなどでスキーを楽しんでいた。バッジテストは二級。一級は四回トライするも不合格。また、困ったことにゲレンデが高所になると指先が冷たくなり、さらに痛くなることである。電熱線付きの手袋でも十分な効果は得られなかった。

自己診断では、高齢→動脈硬化→循環障害だと思っている。

⑥ワイン

三十年ほど前、苦小牧のホテルでソムリエのTさんのワイン会に出席してからは、ワインに対する認識が変わった。ワインは勉強に値する飲み物なのである。ワインアドバイザーを目指して勉強開始した。三回受験して全回不合格であった。ペーパーテストは良かったが、テイスティングが悪かったのだ。

ありがたいことに馴染みのレストランで、数日利き酒訓練をしていただいた。そのお蔭で四回目の試験は無事合格。大感激であった。

後日ワインを飲む機会はかなり増えたが、約二年前突然「一過性脳虚血発作」となり、一週間ほど脳外科に入院する羽目になってしまった。飲み過ぎによる脳動脈硬化が主原因と考えられる。皆さんもお気をつけください。

⑦手品 (3Sマジック)

私は三年前より自宅近くにある介護施設に週三回ほど勤務している。

通所者や入所者は手が不自由であったり、認知症の方も多くいらっしゃる。二十年ほど前から手品を続けてきた私は、このような方々にも喜んでいただけるようなネタを考えてきた。

その結果、私が3Sマジックと名付けた手品を披露している。つまりネタが小さくて「Small」、簡単で「Simple」、すばやいで「Speedy」を目標とした。

練習して家族に披露する通所者もいて仕掛け人の私としては、自分の趣味が役立って嬉しい限りである。